

杉並区新型インフルエンザ等対策行動計画（案）に対する区民等の意見及び区の考え方

※枝番は、同一人物から複数の意見があった場合に記載

番号	枝番	意見（全文）	区の考え方	修正の有無
1	1	<p>・物資配布における物流コストの最適化と「拠点配布」の徹底</p> <p>計画案では「マスクや消毒液等の物資の確保と配布」が挙げられていますが、前回のパンデミック時のような個別郵送は、莫大な事務経費と送料（血税）の浪費です。有事の際こそ、地域の公共施設、学校、または各マンション単位での「拠点配布」を原則とする体制を事前に構築してください。浮いた送料分を、より質の高い備蓄品や、住民が日常から利用できる浄水インフラの強化に回すことを検討いただきたいです。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の発生時に国による布製マスクの全戸配布が行われましたが、区では感染状況に応じて患者や事業者への支援を適切に行うことは必要であると考えており、当時の対応策として、自宅療養者にパルスオキシメーター及び食料品等の配送や、飲食店等にアルコールスプレーの配布などを行いました。</p> <p>感染症対策に必要な物資につきましては、準備期から十分な備蓄を行い、発生時には、状況に応じた効率的な提供や利用ができるよう準備を進めるとともに、区民や事業者向けにマスクや消毒薬等の備蓄を勧奨してまいります。</p> <p>物資の「拠点配布」につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>	無
	2	<p>・「きれいな新品」よりも「実用的な循環」の重視</p> <p>備蓄品の更新に際し、単に廃棄・買い替えを繰り返すのではなく、賞味期限や使用期限が近づいたものを地域イベントや困窮者支援で無料配布する仕組みを計画に明記することを検討いただきたいです。配送エネルギーを最小限に抑え、日常から「実用的なもの」を地域で回す仕組みこそが、真に持続可能な防災・感染症対策と考えます。</p>	<p>現在、区では、備蓄品のうち有効期限等のあるものについて、ローリングストックの考え方に基づき運用することとしており、単純に廃棄するのではなく、区の事業や関係機関での二次利用により有効活用を図っています。</p> <p>今後も、備蓄品の更新に当たっては、廃棄を最小限に抑えるよう努め、最後まで有効活用を図ってまいります。</p>	無

	<p>・住民の「納得感」と「おもいやり」のある情報発信</p> <p>計画案にあるリスクコミュニケーションにおいて、単なる「注意喚起のメール」だけでなく、管理会社や地元の店が住民同士の助け合いを阻害しないような指針（例：トラブルを恐れて丸投げするのではなく、対話を促す等）を区として示すべきです。経済的な不安（水道料金や生活コスト）を軽減する視点を持った対策が、結果として街の活気と安心に繋がると思います。</p>	<p>本計画の実施に当たっては、基本的人権を尊重することとし、区民の自由と権利に制限を加える場合には必要最小限とすることや、社会的弱者に配慮するなど区民の安心を確保し社会の分断が生じないよう取り組むこととしています。</p> <p>また、感染症危機下では様々な情報が錯綜しやすく、偽・誤情報が流布するおそれがあり、情報発信の在り方については重要な課題であると認識しています。</p> <p>これらを踏まえ、行政からの注意喚起のような一方通行の情報提供だけでなく、相談窓口等の区民の声を聞く体制を整備するなど、双方向のコミュニケーションに基づくリスクコミュニケーションの実施に努めてまいります。</p>	<p>無</p>
--	---	--	----------